

令和3年度(2年度実績) 総合評価書 <施設名 多治見市学習館>

1. 指定管理者名	公益財団法人 多治見市文化振興事業団
2. 指定期間	平成28年 4月 1日 ～ 令和3年 3月31日
3. 業務の範囲	(1) 学習館の施設及び設備の維持管理に関すること。 (2) 学習館の利用許可及び市内施設の受付業務に関すること。 (3) 市民一人一人の学習・文化活動を支援促進し、市民文化の向上に寄与するために必要な生涯学習に係る事業の運営に関すること。

4. 採点表		評価項目		細目	配点	採点基準	実績(パーセントを求める場合は、小数点第1位を四捨五入)			分析、評価、指示等		得点
1	運営・利用状況 (40点)	(1)利用状況(10点)	①施設の利用率(利用時間/日数×営業時間)	5	新型コロナウイルス対応一律4点(令和2年度のみ)	年次報告書P.206、207(利用率・利用人数) 【利用率(全体)】24.8% 【利用率(部屋別)】 学習室101:22.9% 学習室501北:25.8% 学習室501南:39.6% 学習室502:33.4% 学習室503:15.3% 学習室504:25.0% 学習室505:30.1% 学習室506:12.2% 学習室401:30.2% 学習室402:39.7% 学習室403:1.0% 視聴覚室:19.8% 美術室:20.5% 工作室:17.3% 音楽室:27.4% 和室 志野:10.2% 和室 織部:18.2% 陶芸室:12.7% 多目的ホール:26.6% (新型コロナウイルス対応 一律4点)	4点		新型コロナウイルス対応一律4点(令和2年度のみ)		4点	
			②利用人数	5	新型コロナウイルス対応一律4点(令和2年度のみ)	年次報告書P207(利用人数) 【利用人数(全体)】 54,068人 (R1)108,461人 【利用人数(部屋別)】 学習室101:2,372人 学習室501北:5,550人 学習室501南:8,407人 学習室502:3,920人 学習室503:569人 学習室504:1,977人 学習室505:2,120人 学習室506:1,079人 学習室401:1,203人 学習室402:4,274人 学習室403:91人 視聴覚室:1,479人 美術室:1,509人 工作室:1,172人 音楽室:1,599人 和室 志野:1,279人 和室 織部:1,919人 陶芸室:746人 多目的ホール:5,480人 (新型コロナウイルス対応 一律4点)	4点		新型コロナウイルス対応一律4点(令和2年度のみ)		4点	
		(2)市の事業の企画・運営・実施状況(仕様書内)(15点)	15	仕様書以上:15～12点、仕様書に忠実:11～9点、仕様書の一部不実施(軽微):8～7点、仕様書の一部不実施(中程度):6～3点、それ以下:2～0点	年次報告書P208～231(文化事業一覧) ①多治見市桔梗大学 65歳以上対象 153名入学 入校式 および修了式:中止 教養講座3回開催 113人参加、長寿を祝う会(兼芸術鑑賞「落語会」) 51人参加 桔梗大学文化祭ステージ部門:中止、展示部門:令和2年度は開催を見送り、令和3年4月～6月に実施した。 ②多治見市美術展 ・一般の部:日本画・洋画・工芸・彫塑・写真・書道・デザインの7部門 331点の応募があった。 ・子どもの部公募展:市内の3歳児から中学生まで277点の応募があった。 ・学校作品展:中止(※教育研究所および市子ども支援課との協議による)	仕様書以上 13点		桔梗大学(平均年齢81.6歳 最高齢93歳) ・高齢者の人との出会い、仲間づくり、生涯学び続けようとする思いに応えるとともに、参加者の健康の支えや生き甲斐につながっている。 ・桔梗大学は、他の文化事業に比べ参加者の平均年齢が高く、新型コロナウイルス感染省の感染リスクが高いこともあるため、徹底した感染防止対策とともに、学生および講師の協力を得ながら運営を行い、できる限りの学びの場を提供することができた。 美術展 ・美術展一般部は、引き続きセラミックパークMINOで開催。東海地方屈指の開催回数を誇る。徹底した感染防止対策を行い、県内外より出品があり大きなトラブルもなく運営を行った。 ・子どもの発表の場は、コンクール形式の公募展のみ実施。多くの家族連れでにぎわいを見せ、教育活動の発表の場である学校作品展は、コロナ禍による園・学校現場の意向を尊重し中止とした。		13点		
					(3)自主事業の企画・運営・実施(15点)	15	内容・事業数等が期待以上:15～12点、内容・事業数等が例年通り:11～9点、内容・事業数等が例年よりやや劣る:8～7点、内容・事業数等が例年より劣る:6～3点、内容・事業数等が例年よりかなり劣る 2～0点	年次報告書P209～231(文化事業一覧) 主な事業報告 【BUNBUNねっと表紙】秋号・冬号表紙デザインを多治見工業高校と多治見西高校生徒にそれぞれ依頼した。 【1階賑わい創出事業】 ①ギャラリー展示 高校部活動サポート事業:多治見工業高校デザイン科/多治見高校文芸部/多治見北高校美術部 防災意識啓発事業「伊勢湾台風一あの日の多治見ー」、「東日本大震災の記録」 ②ウエルカム1(申込不要・当日参加事業) カンタン工作ひろば/どきどきハロウィンスポット/きらきらクリスマス/防災グッズ工作 【1階賑わい創出事業-緑地編-NPO法人Mama's Caféとの連携】 ワン！わんわんマルシェ、我が家のワンコ写真展、まちなか・心をあつたかプロジェクト「緑地イルミネーション」 【生涯学習講座】 まなびの森9講座(古典文学講座、歴史講座、ヨガ講座他)/60代倶楽部2講座(ジーンズでコーラスを！/万葉集) 【他機関との連携講座】 図書館:古文書講座/多治見をもっとおもしろく！タジミ学 現代陶芸美術館:子ども向けワークショップ 市民活動交流支援センターぼと:知ってよかった防災シリーズ(防災講座、ギャラリー展示、ワークショップ) パロー文化ホール:た・じ・ミュージック コンサート出演者によるレクチャー講座、コンサート 多治見市くらし人権課:子どもの権利「どうぞのいすをつくろう！」/男女共同参画「イライしない・させないコミュニケーション術」 【まなびプロジェクト事業「VIVA！マナビバ！春・夏・秋・冬」】	期待以上 12点		コロナ禍での約2カ月間の休館期間を経て、これまでの活動を絶やさぬよう市民の協力を得て、徹底した感染防止対策を講じ、市民が安心して学び、交流し、そして多治見市の中心市街地活性化に貢献する。ヤマカまなびパークの活動を再開できた。 ・これまで培ってきたネットワークや複合施設であることの特色を活かし、他機関と積極的に連携・協働し、市民に専門性の高いまなびの場を提供するとともに、施設の特性を活かして緑地でイベントを開催し、“まちなか”の賑わいと施設の賑わいづくりに貢献した。 ・コロナ禍で相次いで発表の場が中止となっている若い世代の表現の場を支援するため、新しい試みとしてBUNBUNねっと表紙イラストデザインを市内高校に依頼するとともに、文科系部活動の展示会を年間とおして実施した。 ・コロナ禍で減少した親子のふれあいの場、子どもの表現の場を提供するため、ウエルカム1のプログラムを工夫した。 ・オープンキャンパス及びプライベートカレッジを進化させ、生涯学習多治見モデル「まなびリッジ事業」を継続。1人からでも講座が成立する「VIVA！マナビバ！」を開設し、夏講座から再開した市民の学びたい意欲に応えた。	
2	(1)施設管理業務の実施状況(10点)	①清掃	10	①チェック細目の丸数字の各項目を3段階評価する(適正(普通):2点、一部不備あり:1点、不備あり:0点) ②2項目の合計点とする。	年次報告書P232(①清掃) 館内清掃(日常清掃)、定期清掃(床)等を実施。・新型コロナウイルス感染症対策として、清掃員の感染防止対策を講じつつ、館内の清掃衛生活動を重点的に実施した。希望のお客様には、使い捨て手袋・紙ナプキン・消毒液をセットした簡易のふき取りセットを貸出した。清掃用具購入費の一部は、令和2年度文化庁芸術振興費補助金(感染防止事業)を活用した。	適正(普通) 2点		適正に実施されている。		9点		
		②保守・点検			年次報告書P232(②保守・点検) 専門の建物管理会社に委託することで、各種点検や業務を遅滞なく実施した。	一部不備あり 1点		必要な保守点検は適正に実施されていたが、一部、次年度に必要な大規模な法定点検の報告漏れあり。				
		③保安・警備			年次報告書P233(③保安・警備) 開館日毎日警備員による巡回および立哨業務を行っている。夜間および休館日は、機械警備を実施した。	適正(普通) 2点		適正に実施されている。				
		④小規模修繕			年次報告書P233～234(④小規模修繕) ・有償修理 全19件 総額 3,612,151 円 ・うち、室外機・室内機洗浄整備は、文化庁芸術振興費補助金(業務再開に伴う環境整備)より工事費の半額の助成を受けた。	適正(普通) 2点		適正に実施されている。				
		⑤危険箇所の把握(施設の瑕疵)			年次報告書P234(⑤危険箇所の把握) ・職員による開館前点検を実施した。 ・市が定める日常点検および定期点検を通した建物管理を実施した。	適正(普通) 2点		適正に実施されている。				
		①文書管理			年次報告書P224(①文書管理) ・多治見市が行っているファイリングシステムに準じた方法による情報管理を行うとともに文書管理責任者による研修を実施した。 ・問合せにも迅速に対応できるよう、文書情報の整理にも力を入れている。	適正(普通) 2点		・ファイリングシステム維持のため、文書管理責任者による研修を実施した。 ・申請書をお客様ごとに管理し、還付等が発生した際に円滑に対応している。新型コロナウイルス感染症による臨時休館等による還付手続きの迅速化につながった。				

施設管理状況 (25点)	(2)その他管理業務の実施状況(15点)	②環境への配慮	15	①チェック細目の丸数字の各項目を4段階評価する(期待以上:3点、適正(普通):2点、一部不備あり:1点、不備あり:0点) ②5項目の合計点とする。	年次報告書P235(②環境への配慮) ・【省エネルギーの推進】AI人工知能を活用した省エネシステムの活用と館内照明(非常誘導灯含む)のLED化を継続し、電力使用量の削減に取り組んだ。 ・【暑さ対策にむけた多治見市の取り組み「ミスト発生器」への設置・活用への協力】 市が進める暑さ対策の一つである「ドライ型ミスト発生器」が正面玄関ロータリー軒天上に設置された。管理者として、水道水の供給やPR看板の設置など協力を行った。(7/28から9/14まで休館日を除き9:00～17:00まで自動運転)	適正(普通) 2点	・省エネシステムの活用とあわせて、昨年度比で電力使用量約8.7%の削減に成功した。	10点	
		③バリアフリー			年次報告書P235(③バリアフリー) ・”子育てバリアフリー”の観点から、1階の授乳室をリニューアルした。(おむつ交換台および授乳用ソファの導入) ・高齢者や障がい者の移動を妨げないように動線の確保に努めている。 ・来館されたお客様に活用いただけるよう1階及び地下駐車場入口に車椅子を設置。車椅子は定期的に点検を実施した。	適正(普通) 2点	ショッピングモール等民間商業施設では一般化しているおむつ交換台を公共施設に導入した。子育て世代に好評を得ている。		
		④備品管理			年次報告書P235(④備品管理) ・備品台帳に基づき、各備品を適切に管理するとともに、利用者ニーズに応えるための備品の更新を的確に行っている。 ・始業前巡回点検時に、机やいすなど什器類の点検を実施し、不具合がある場合は設備員による原則即日修理対応(時間を要する場合は代替品の用意)をとるなど、お客様への影響を最小化するよう努力している。 ・新型コロナウイルス感染症防止対策として、足踏み式消毒液噴霧装置・非接触型体温計・飛沫防止用アクリルパーテーションを導入した。	適正(普通) 2点	・多治見市との連携や文化庁補助金を活用し、新型コロナウイルス感染症感染防止対策のための各種衛生用品等の購入を迅速にすすめ、利用者に安心して来館いただける環境を構築した。		
		⑤個人情報保護			年次報告書P235(⑤個人情報保護) ・「個人情報保護に関する方針」を策定し、その基準に基づき取り扱っている。 ・個人情報を含む書類等をキャビネットに保管し、廃棄する際はシュレッダーで裁断、直接処分場へ持ち込み焼却処分を行っている。また、必要以上の個人情報の収集は行わないようにしている。また、業務中もできる限り机上に置かないよう注意を払っている。	適正(普通) 2点	・方針の徹底のために、管理職および担当職員による指導を適宜実施した。		
		⑥事故等への対応			0	事故等への対応は減点対象とする(事故なし及び事故等の対応に不備なし:0点、事故等対応に不備あり:△1点) 年次報告書P236(事故等への対応) 【学習館公用車(軽バン)の後部ガラスが破損する事故について】 ＜概要＞令和3年2月28日、公用車駐車場に前向き駐車中の学習館公用車(軽バン)の後部ガラスが破損しているのを職員が発見した。本件による人的被害は認められていない。 ＜主な要因＞ 原因不明(悪質ないたずらか飛び石による偶発的なものか) ＜措置＞多治見警察署に連絡を行い、警察の指導のもと被害届を提出した。自動車任意保険にて原状復帰を行った。	事故なし・対応に不備なし 0点		被害の把握から被害届の提出、その後の原状復帰まで適切に対応した。 【事故防止に関する取り組み】 警備員による巡回、設備員による建物外観目視等の点検を強化するとともに、クレーム事案や不審者情報は学習館・図書館・市民活動交流支援センター間で情報を共有した。 さらに、応急手当等の確な対応が迅速に行えるよう、職員が毎年普通救命救急講習を受講し、多治見市「応急手当推奨事業所」の認証を受けた。
		3			当該施設の経営状況(5点)	①事業収支	5		当該年度の収入÷支出が、105%以上:5点、105%未満～100%:4点、100%未満:3点
4	より良い施設運営のための取組(30点)	(1)市民・利用者の声の反映(15点)	①ニーズの把握・事業への反映	10	期待以上:10～8点、適正(普通):7～5点、不備あり:4～1点	【コロナ禍で、自宅安心して講座を受講したい声への対応】 講座申込初日に窓口に希望者が集中回避のため、学習館電話番号複数号を活用した電話予約サービスを試行(VIVA! マナビバで実施) インターネットを活用した遠隔(リモート)講座を試験的に実施。これから高まるニーズに対応するための環境を構築した。 【コロナ禍での施設利用、お客様の声、トレンドを意識した備品の購入】 ・お忘れになった方向けにマスク(個包装)を販売した。 ・ホールでの会議利用を想定した専用カート収納型会議用テーブルの買い増し ・視聴覚室の定員を増やすため、2名掛け用の椅子から3名掛け用の椅子に変更した。 ・重くて扱いにくかった音楽室の椅子を軽量で専用台車で移動できる椅子に変更した。 ・ソーシャルディスタンスを確保するため、全国に先駆けてソーシャルディスタンス確保用シートカバーを導入し、講座実施時に活用した。 【誰もが安心して過ごすことができる1階ロビー環境の整備】 ・ソーシャルディスタンスを確保するためロビーのテーブルセットの配置を見直した。	期待以上 9点	・コロナ禍における新しい学習様式に対応するため、電話予約サービスの試行やインターネットを活用した遠隔(リモート)講座の実施など創意工夫して対応を行った。 ・ネーミングライツ命名権料や国の補助金を活用してコロナ対策物品や施設什器を積極的に更新し、市民が安心して来館、活動いただけるような環境づくりを行った。 ・コロナ対策のため、1階ロビーに配置しているテーブルセット等の什器の配置を見直し、誰もが過ごしやすいよう環境整備を積極的に行った。	9点
			②苦情対応	5	期待以上:5点、適正(普通):4点、不備あり:3～1点 ※苦情なしは5点とする	苦情なし	苦情なし・期待以上 5点	新しくサービスを実施するにあたり、施設間で情報共有と意見交換を行い、お客様の不満や不便さをできる限り解消し、苦情が発生しないような施設運営に努めた。	5点
		(2)より良い施設運営・事業実施のための提案・姿勢、上記1～3の評価に反映されないその他の成果ポイント(15点)	15	提案、姿勢、その他の成果ポイント(アピール)が期待以上:15～12点、適正(普通):11～9点、普通未満～物足りない:8～0点	利用者の安全を第一に、徹底した感染防止対策を講じ、施設の価値を高める魅力ある生涯学習講座および文化事業を創意工夫して実施した。 ・市民のニーズや社会のトレンドを分析し、専門機関や市民団体と積極的に連携し、付加価値の高いバリエティ豊かな講座を実施し、コロナ禍においても市民に生涯学習活動の機会提供と意識高揚を行った。 ・全国的に注目されている生涯学習多治見モデルである「VIVA! マナビバ」を継続実施し、一人でも多くの市民が学べる場を提供した。 複合施設の利点を最大限に生かし、「交流」、「連携」をキーワードに、生涯学習+まちづくりを一体化した賑わい創出事業の展開した。 安全安心な施設環境づくり、事業とリンクした新しい価値や利用を生み出す仕掛けづくりなど、これまでに増して、市民に愛される持続可能な施設運営のため、計画的修繕や備品の更新などの環境整備を積極的に実施した。	期待以上 12点	・コロナ禍においても、まなびパークで過ごす日常を確保するため、来館者の協力を得ながら徹底した感染防止対策を講じ、市民のニーズや社会のトレンドを先取りし、施設の使命であるマナビの場、交流の場を創出する生涯学習講座や各種イベントを実施している。 ・「まなびブリッジ事業」を継続実施。1人からでも講座が成立する「VIVA! マナビバ!」を実施し、市民が教え、市民がまなぶ生涯学習多治見モデル事業を推進している。 ・高校生の部活動発表の展示事業やNPO法人と連携した賑わい創出(施設および中心市街地活性化)事業等を継続して実施している。 ・コロナ禍の利用減少を見過ごすことなく、施設の環境整備を積極的に行い、市民に安心安全の環境を提供した。結果的に感染者やクラスターを発生させなかった。	12点	
5	その他(減点方式)	(1)報告書類の提出状況	0	提出書類の遅れ・不備に応じて減点対象とする(遅れ・不備内容の程度により△1～△3点) 一部遅れ・不備あり(軽微):△1、一部遅れ・不備あり(中程度):△2、一部遅れ・不備あり(それ以下):△3	月次報告書(毎月提出)	遅れ・不備なし 減点なし	提出期限までに提出した。	0点	
		(2)市からの指示等への対応(報告書類の提出以外)等	0	指示への対応等に応じて減点対象とする(対応等の内容により△1～△3点) 指示等なし・対応等が期待どおり:減点なし、対応等が期待以下(軽微):△1、対応等が期待以下(中程度):△2、対応等が期待以下(それ以下):△3	なし	指示等なし・対応等が期待どおり 減点なし		0点	
合計			100	【4段階評価】 極めて良好 100～85点 良好 84～65点 努力が必要 64～45点 取消し等を検討 44点以下				全体的な評価 ・コロナ禍における講座の在り方を模索し、ガイドラインに沿った感染対策を講じ、あらゆる世代の市民が安心して参加、交流できる学びの場を提供することができた。 ・美術展は、実施できる方法を十分に検討し開催。昨年を上回る出展数となり、レベルの高い美術展となった。 ・市民のニーズ、社会の動向を的確に捉え、高校生や他機関と連携しながら新しい試みにも取り組んでいる。 ・市民の声を反映した施設環境整備、運営が実施できた。	合計82点 良好